

第1 岡山市の概要

I 自然的条件

1 面積

岡山市は平成21年4月1日に政令指定都市になり、各区の面積は次のとおりとなっている。

地 区 別		面 積
区 別		面積 (km ²)
北 区		450.70km ²
中 区		51.24km ²
東 区		160.53km ²
南 区		127.48km ²

2 地 勢

(1) 地形、地質の概要

本市は、旭川、吉井川の一級河川及び吉備高原から流れる笹ヶ瀬川、足守川、砂川などの河川の沖積作用により次第に海棚が形成され、陸地が南下していき、また16世紀末からは干拓事業によって急速に平野部面積が拡大されていった。

図1 (P2) 表層地盤の深さ 参照

図2 (P3) 地盤高 参照

(2) 水 系

市域は、一級河川水系の旭川水系、吉井川水系、二級河川水系の笹ヶ瀬川水系、倉敷川水系、千町川水系、幸崎川水系、幸田川水系、江川水系からなっている。笹ヶ瀬川水系が最も大きな流域を持ち、次いで旭川水系、倉敷川水系、吉井川水系となっている。各河川の支流をなす小河川は河床勾配が大きく、土砂流出も大きいことから災害発生等の危険性を持っている。

図1 表層地盤の深さ (m)
N値50まで

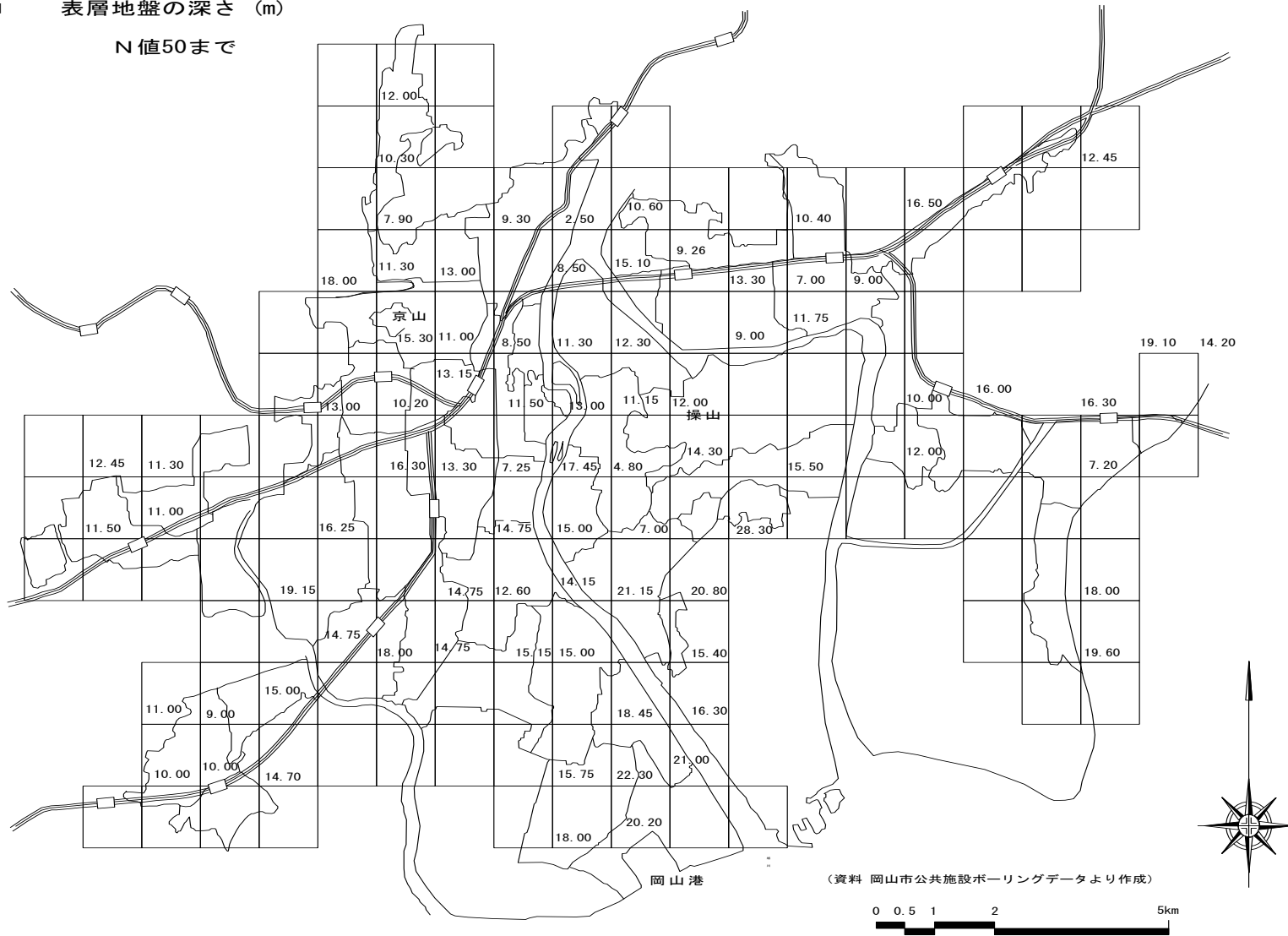
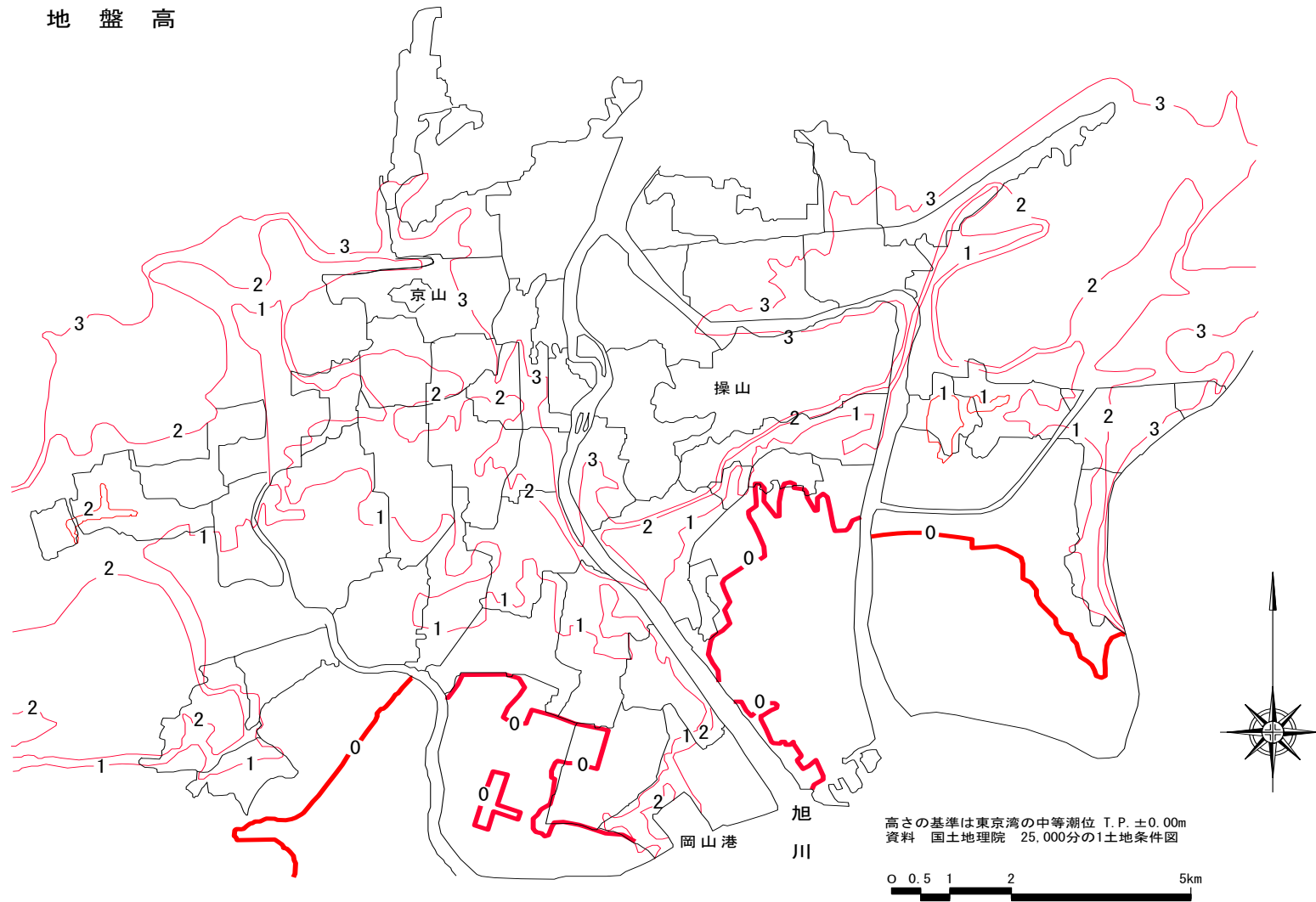


図2 地盤高



Ⅱ 社会的条件

1 人 口

明治22年6月1日市制及び町村制の施行とともに岡山区を改めて岡山市となった。市制実施時は、戸数9,581戸、人口47,564人であったが、隣接の市町村を順次編入合併し、また公有水面埋立による新生地の編入により市域を広げ、県下はもとより東瀬戸内圏の政治経済、文化、交通の中心地となり、令和2年国勢調査（確定値）では327,620世帯、724,691人となった。

※『ホームページ国勢調査結果』参照

http://www.city.okayama.jp/category/category_00000269.html

(1) 世帯数、人口の推移

区分 \ 年	昭和40年	45年	50年	55年	60年	平成2年
世帯数	110,439	132,403	156,933	178,876	191,318	213,026
人口	417,908	460,542	513,471	545,765	572,479	589,334
1世帯当り人員	3.74	3.45	3.24	3.12	3.02	2.77
人口密度	814	897	1,000	1,063	1,115	1,157
区分 \ 年	7年	12年	17年	22年	27年	令和2年
世帯数	231,678	244,010	275,242	296,790	309,409	327,620
人口	615,757	626,642	674,746	709,584	719,474	724,691
1世帯当り人員	2.66	2.57	2.45	2.39	2.33	2.21
人口密度	1,200	1,221	1,025	898	911	917

(2) 地区別人口の推移

地区 \ 年	昭和40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年
総数	417,908	460,542	513,471	545,765	572,479	589,334	615,757	626,642	696,172
本庁	291,825	325,931	355,019	366,306	380,405	386,245	405,832	408,874	419,805
西大寺	46,868	49,175	55,206	59,355	60,632	61,998	63,853	65,439	65,626
一宮	8,904	11,620	14,970	17,223	19,506	20,953	21,130	21,443	21,545
津高	8,108	8,471	11,896	13,876	14,919	15,264	16,496	18,685	19,709
高松	11,171	11,518	13,748	15,000	15,361	15,778	15,529	16,801	16,988
吉備	8,672	10,957	13,472	16,674	18,400	19,621	20,814	21,836	23,432
妹尾	9,648	9,880	10,116	11,299	13,327	14,618	14,956	14,558	14,349
福田	3,340	4,054	5,136	6,474	7,826	8,780	9,328	9,543	10,237
上道	6,548	6,759	8,342	10,004	11,163	13,340	14,331	15,600	16,190
興除	7,518	7,397	8,551	10,373	10,962	11,749	12,890	13,771	14,234
足守	10,002	8,941	8,692	8,596	8,508	8,463	8,027	7,755	7,446
藤田	5,304	5,839	8,323	10,585	11,470	12,525	12,571	12,337	12,505
児島									6,713
御津									10,111
灘崎									15,856
建部									6,524
瀬戸									14,902

地区	年	平成22年	平成27年	令和2年					
総数		709,584	719,474	724,691					
北区		302,685	309,484	314,523					
中区		142,237	146,232	149,232					
東区		96,948	95,577	93,108					
南区		167,714	168,181	167,828					

※平成22年分からは区ごとの集計とする。

(3) 年齢別人口

令和2年の本市の年齢3区分人口は、年少人口92,756人（13.2%）、生産年齢人口424,785人（60.4%）、老年人口185,732人（26.4%）である。

年齢（3区分）別人口の推移

地区	年	昭和40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年
総数		417,908	460,542	513,471	545,765	572,479	593,730	615,757	626,642
年少人口		94,327	102,915	120,461	125,795	123,631	110,555	101,397	96,407
0～14歳	比率	22.6	22.3	23.5	23.1	21.6	18.6	16.5	15.4
生産年齢人口		293,069	320,444	347,994	366,678	388,655	412,385	428,238	426,632
15～64歳	比率	70.1	69.6	67.8	67.2	67.9	69.5	69.5	68.1
老年人口		30,512	37,183	44,869	53,078	59,990	70,162	85,563	103,461
65歳以上	比率	7.3	8.1	8.7	9.7	10.5	11.8	13.9	16.5
地区	年	17年	22年	27年	令和2年				
総数		674,746	709,584	719,474	724,691				
年少人口		97,819	100,175	97,043	92,756				
0～14歳	比率	14.6	14.3	13.7	13.2				
生産年齢人口		447,353	450,108	435,475	424,785				
15～64歳	比率	66.6	64.2	61.5	60.4				
老年人口		126,390	151,140	175,013	185,732				
65歳以上	比率	18.8	21.5	24.7	26.4				

(年齢不詳：昭和50年147人、55年214人、60年203人、平成2年628人、7年559人、12年142人、17年3,184人、22年8,161人、27年11,943人、令和2年21,418人を総数に含む。)

(4) 産業別就業人口

令和2年の産業別就業人口の総数は330,721人で、第1次産業就業者数は7,487人、第2次産業就業者数は69,148人、第3次産業就業者数は254,086人である。

産業別就業人口の推移

地区		年							
		昭和40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年
総数		208,992	239,088	247,484	258,604	269,632	285,974	306,506	304,690
第1次産業		41,157	35,270	23,705	19,296	16,941	13,288	11,946	9,624
比率		19.7	14.8	9.6	7.5	6.3	4.6	3.9	3.2
第2次産業		58,632	69,525	72,549	72,721	72,956	78,909	81,012	74,695
比率		28.1	29.1	29.3	28.1	27.1	27.6	26.4	24.5
第3次産業		109,145	134,068	150,564	166,445	179,127	193,402	212,003	215,772
比率		52.2	56.1	60.8	64.4	66.4	67.6	69.2	70.8
地区		年							
		17年	22年	27年	令和2年				
総数		317,971	332,578	341,230	330,721				
第1次産業		10,669	8,925	8,329	7,487				
比率		3.4	2.7	2.4	2.3				
第2次産業		71,346	67,642	70,742	69,148				
比率		22.9	20.3	20.7	20.9				
第3次産業		229,260	256,011	262,159	254,086				
比率		73.7	77.0	76.8	76.8				

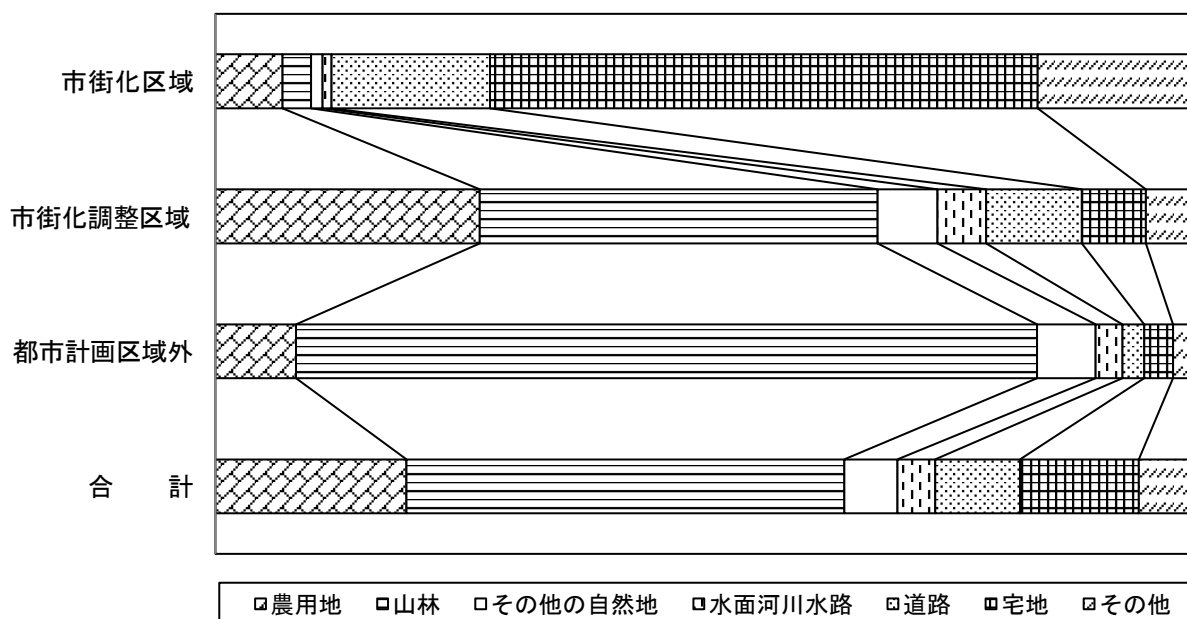
(総数には、分類不能を含む。)

2 土地利用

土地利用の概況

市土の土地利用概況は次のとおりであり、農用地、山林・その他の自然地、都市的土地利用（道路・宅地・その他）がほぼ1/3ずつ市域を分けあっている。

土 地 利 用 構 成



大分類地目別土地利用現況及び構成比

	市街化 区域 ha	市街化調整 区域 ha	都市計画 区域外 ha	合 計 ha	市街化 区域 %	市街化調整 区域 %	都市計画 区域外 %	合 計 %
農 用 地	558	14,163	1,900	16,620	5.4	29.4	9.3	21.0
山 林	271	20,414	15,341	36,026	2.6	42.3	75.2	45.6
その他の自然地	128	2,719	962	3,808	1.2	5.6	4.7	4.8
水面河川水路	143	2,462	571	3,175	1.4	5.1	2.8	4.0
道 路	1,789	2,499	460	4,747	17.2	5.2	2.3	6.0
宅 地	5,730	3,321	564	9,605	55.2	6.9	2.8	12.2
そ の 他	1,771	2,643	598	5,012	17.0	5.5	2.9	6.3
合 計	10,390	48,210	20,395	78,995	100.0	100.0	100.0	100.0

(平成29年 平成30年 都市計画基礎調査資料による)

3 都市化

(1) 建 物

本市の市街地は、都心部を中心としてほぼ同心円状に形成され、周辺部にかけて分散的に市街地集積の高い地区がある。都心部では商業化率も高く、複数の地区ではビルの高層化や再開発が進んでいる。

周辺部では、工業化率が高く、住宅は都心部との中間に位置する傾向がみられる。

岡山駅を中心とする地区は、各種美術館、博物館等多くの文化施設や「岡山後楽園」、「岡山城」等

の観光施設が集中し、文化観光の拠点となっている。

(2) 橋 梁

J R 西日本線が7路線27駅、市内バス路線1社、郊外バス路線5社が都市部に集中し、山陽自動車道、中国横断自動車道の整備、瀬戸大橋の架橋により中国、四国の交通の結節点としての役割が増大している。

主要幹線道路の改良も進み、改良率は全国平均を上回っているものの、自動車はその利便性機動性等から保有台数が年々増加の一途をたどっている上に隣接市町村からの通勤等のための流入も加わって、主要道路はラッシュ時交通渋滞を起し、災害時における緊急自動車の通行の阻害要因となっている。